

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(さつきユニット)

事業所番号	2793300159		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大阪松		
所在地	大阪府大阪市西成区松1-8-32		
自己評価作成日	平成29年2月12日	評価結果市町村受理日	平成29年6月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>愛の家(メディカル・ケア・サービス株式会社)は全国に248ヶ所(平成29年3月1日)のグループホームを展開させて頂いており、スケールメリットを活用したノウハウの蓄積とそのフィードバックを行っています。愛の家大阪松では、入居者様のお気持ちに寄り添いながら、ご自分でお持ちの生活能力を發揮して頂ける様にお手伝いさせて頂いております。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年3月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>経営母体のメディカル・ケア・サービス(株)は、248グループホームを中核に各種福祉施設を全国展開する一大福祉企業である。そのスケールメリットを活かし「認知症介護における各種改善・向上事例研究全国発表会」を毎年開催しており、当事業所もその成果を検証・共有して運営に活かしている。利用者一人一人が「その人らしく快適で穏やかなシルバーライフを過ごせるように、心を込めたサービスに努め、地域の人々との触れ合いを大切にする」という事業所理念を掲げ、職員一致団結してその実践に取り組んでいる。利用者・家族の思いや暮らし方の希望を丁寧に聴き取りその気持に寄り添って自己決定を促し本人の生活リズムを大切にしながら柔軟な支援に徹するように努めている。それを適える職員の育成に注力し資格取得とレベル・スキルアップに努めると同時に各種報奨制度で職員のモチベーションが高まり、定着率も大幅に向上している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	主に朝礼時に適時、理念について共有し職員への指導を行っている。	「その人らしい快適で穏かなシルバーライフをサポートし、心を込めた親切なサービスに努め、地域の人々との触れ合いを大切にする」という理念とそれに基づく行動基準を職員皆で決めている。朝礼時に唱和して日々その実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回、地域のふれあい喫茶に参加させて頂き、毎月の廃品回収のお手伝いをさせて頂いています。	町会に加入し、毎月開催されるふれあい喫茶に参加したり廃品回収の手伝いをし、年1回のバス旅行にも参加している。商店街の大衆劇場の役者の慰問を受けたり、ホーム主催の秋祭りには近隣住民が大勢来てくれ地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	西成区の福祉避難所の登録を行う手続きをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、実施しています。運営報告と地域の連携について話し合っています。	地域包括支援センター職員、町会長、商店街会長および利用者・家族が参加して、奇数月の第3水曜日に開催している。ホームの運営状況の報告や課題を説明し、意見やアドバイスを受け運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	西成区の地域福祉課、生活保護の担当者と主に情報共有を行っています。	生活保護受給者が多く、区の地域福祉課の担当者との接触・相談が多い。運営状況を報告し、困難事例についてアドバイスを得ている。市主催のグループホームネットワークに参加し、情報交換し運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	メディカル・ケア・サービスとしてのマニュアルが有り、施設としても定期的な研修と朝礼時の啓発を行っています。	マニュアルを基に定期的に研修を行い、身体拘束に該当する具体的な行為を正しく理解して、拘束しないケアに努めている。玄関は施錠しているが、見守りを重視し素振りや察知して、外出の要望に対応している。フロア間の移動はフリーにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ざることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行っています。虐待防止と虐待が起きない職場作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政からの広報等を活用し、成年後見制度等の理解が進むように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項取扱説明書は契約・入居時に読み合わせをさせて頂き、不明な点はその都度ご説明をさせて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様アンケートを年に1回実施しています。アンケートの結果はご家族様にお伝えさせて頂き、施設全体で改善に努めています。	家族の意見・要望は来訪時や運営推進会議の後時間を設けて丁寧に聞いている。毎月利用者の暮らし振りを写真とコメントを添えた便りを家族に送って好評を得ている。年1回法人全体で家族アンケートを実施し、その結果を職員皆で検討し運営改善に役立てている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の意見を反映できるように毎月の会議を行っています。	管理者と職員とのコミュニケーションは良く取れていて、個別の問題・課題は日常業務の中で都度話し合い解決している。定例的には、全般に関わる課題について毎月のユニット会議・全体会議の場で意見・提案を話し合っている。「個別管理日誌表」の作成・活用はその成果の一例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持てるように勤務状況や個人の能力を評価し、給与に反映しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体の研修とは別に個別の希望を聞いた研修を行っています。又、外部の研修にも参加させて頂いています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市グループホームネットワークに入会し、情報交換させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居のアセスメントの段階で利用者様・ご家族様のご希望や不安な事をお伺いし、利用者様の想いを理解できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に生活歴やご本人様のご希望を伺いながら入居後の支援やご家族様との協力についてお話をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントを素に適切なケアプランの作成とサービスの提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様に出来る事をご自分で行って頂く介護を提供させて頂いており、日々の関わりの中で関係造りを行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とはケアプランの説明を通して、ご家族様にも支援としてかかわって頂きながら一方的な関係にならない様に気を付けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの事柄については会話の中でそのお話をさせて頂きながら思い出して頂ける様に心掛けています。	1階の小規模多機能を利用している友人・知人を含めて、交友関係は大切にし継続するように支援している。入居後の新しい馴染みの関係強化にも意を払っている。馴染みの洋品店や美容院は家族の協力も得て関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様間のコミュニケーションを取って頂ける様に職員が関わりのきっかけになるような対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後に医療行為の為に退去となった方について、定期的にお見舞いに伺うなどの対応をさせて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向を把握する為に、お一人おひとりとコミュニケーションを大切にしています。ご利用者様を中心にご家族様・スタッフと話し合いながら援助の方法を検討しています。	日々のケアの中で一人ひとりの思いや暮らし方の希望・意向を聴き取るように努めている。特に心身がゆったりする入浴や散歩等の個別ケア時に本音を聴き取っている。意思疎通の困難な場合は表情や仕草で察知し、家族に確認して本人本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やこれまでのサービス利用などをご家族様にも提供いただきながら把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様のペース、リズムを大切に現状の有する能力に沿った援助に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はケアマネージャー、計画作成担当者がご本人様・ご家族様の意見を聞きながらスタッフも意見を出し、現状に即したプラン造りを心掛けています。	個別管理日誌・ケア記録やモニタリングの結果等を基に3ヶ月毎に計画作成担当者および関係者がサービス担当者会議を開き、本人・家族・協力医・看護師の意見を取り入れて、本人の現状に即した介護計画を作成している。状況変化時は即見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で気づきが有れば個別のケアシートに記入し、朝礼で申し送りをしています。必要に応じて介護計画を見直しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援の提案を見つけるため、ケアカンファレンス・全体会議を通して出来るだけ多くの意見を頂けるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での生活の為、買い物などで出来るだけ利用者様に地域に出掛けて頂いてます。歯科、眼科等は地域の医院に掛けて頂くなどをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医の受診(往診)その他の場面では必要に応じて主治医と連絡を取っております。主治医とは定期的に利用者様のケアについて助言を頂いております。	内科の受診は、入居時本人・家族の希望を尊重して決めている。現在1人を除いて他全員が協力医による月2回の往診を受けている。歯科その他専門医療科の受診は一部家族の協力を得ながら事業所としての万全な医療体制で支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医のクリニックで医療連携を行っており、看護師との連携を密にとっております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は定期的に面会に伺い、入居者様とのコミュニケーションに努めています。その際、病院との情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期となった場合には入居者様を中心にご家族様・主治医・看護師・ケアマネージャー・スタッフと話し合い、その結果を踏まえてその後の対応を検討させて頂きます。	入居時、重度化や終末期に向けた事業所の指針を説明し理解を得ている。重度化した場合再度家族と主治医・看護師・事業所関係者が対応を話し合い、同意を得て看取り体制の構築と支援に取り組んでいる。既に昨年末に1人の看取りをし、もう1人看取り支援中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本社からのマニュアルが有り、急変・事故が起きた時の対応・連絡手順はスタッフに伝え対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消火・避難・救命訓練をおこなっております。また、定期的に職員に防災の意識向上の為に研修を行っています。	消防署指導の下、年2回の火災・避難・救命訓練を行うほか、定期的に防災に関する研修や講話も実施している。スプリンクラー・消火器・通報設備等を設置し、水・食料品・介護用品の備蓄も完備している。ミニ訓練の実施も計画している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの人格や誇りを考慮した声掛けを心掛けています。	人生の先輩として、一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライドを傷つけないように、特に排泄や入浴時の声かけと対応をするように心掛けている。ふさわしくないと気付いた時は職員同士注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様に日頃からご自身の考えを伺いながらご自分で考えて頂くような促しとかかわり方に気を付けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの生活リズムを大切に職員側の都合に利用者様を合わせるようなことが無い様にスタッフ一同支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれに利用者様が意識を持って頂ける様に更衣の際などは複数の提案をするなどしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけの際にはお手伝いいただけるご入居者様にお手伝いをして頂いております。	本部の管理栄養士が作った献立に基づき、地元商店街で食材を調達し調理専任を含めて職員が交代で調理して美味しい食事を提供している。利用者の好みのメニューもすき焼きや散らし寿司等の季節の行事食やおやつを楽しんでいる。職員も食事介助しながら同じ物を一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の把握が出来るようにその都度チェック表に記入しています。特に水分量については朝礼時に全ユニットから報告を受けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前食後のうがいや口腔ケアを行って頂ける様にお声掛け、介助を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から個人個人の排泄リズムの把握に努めています。	排泄チェック表から夫々の排泄リズムを把握し、自尊心を傷つけないよう小声で声かけをして、トイレ誘導している。入居前に比べ、オムツからリハビリパンツに替え、自立した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の中で体を動かして頂ける時間を持てるように支援しています。排便のチェックを行い把握できるように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々、ご本人様に確認して入浴して頂いています。自己決定が難しい方や介助が必要な方には定期的に入浴して頂いて清潔の保持に努めています。	入浴は週2回を基本とし、希望によって柔軟に対応している。嫌がる利用者が3人いるが、時間や人を替え声かけの工夫を凝らしている。入浴を楽しむ工夫として入浴剤を用いたり5月の菖蒲湯や冬至のゆず湯を喜んで貰っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の時間はお一人おひとり違うのでその方のペースに合わせてお声掛けしています。夜間に安眠できるように日中が活動的になるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お一人おひとりの薬の把握に努めています。薬の変更が有った場合には作用・副作用に留意した様子観察を行い、主治医に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの楽しみを持って頂ける様にご家族やご本人様の要望を伺いながら対応しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなどで外気に触れて頂いております。個別の対応としてはご家族様にご協力いただきながら実施しています。	天気の良い日は、近くの公園や商店街での買い物兼ねた散歩をするように努めている。また家族の協力を得て、天王寺動物園やあべのハルカス等へ出かける計画はあるが、本人・家族の日常的な外出要望には応えられていない。	外気に触れ、太陽を浴び、五感を刺激し、季節感を味わう事は極めて大事である。人員配置のタイトな現状から、大勢の・長時間の外出は無理なので、家族や信頼の置けるボランティア等の協力を得て近隣の散歩・外出の機会を増やす工夫を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは金庫でお預かりさせて頂いております。お金を持っていないと不安な方については小銭を持って頂いて安心して過ごせるようにして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど、ご自分で書いて頂ける方には書いて頂いています。電話のご希望の方にはお手伝いをさせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はご利用様がくつろいで頂ける様に飾りなどの工夫をしております。テーブルの配置なども模様替えなどで変更し、利用様が穏やかに過ごして頂ける様にしております。	縦長の居間兼食堂は、南向きでかつ東西とも大きなガラス窓で全体が明るく清潔感があり室内の空調管理も行き届いている。テーブルとソファの配置も利用者が穏やかに寛ぎ居心地良く過ごせるように工夫している。通路の壁には、利用者の習字や手造りの飾り物の作品と行事の写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士が楽しく過ごせたり一人でのんびりしたい方など、それぞれのニーズや個性に合わせた空間作りを心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使って来られた家具などを持ち込んで頂きながら安心して暮らせる空間作りをしています。	居室には、備え付けのエアコンとクローゼットの他に、今まで使い慣れたベッド・机・椅子・整理タンス・テレビや家族の写真等が持ち込まれ、自宅同様安心して穏やかに暮らせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を援助する為にカレンダーの設置やトイレの表示など工夫をしています。		